

須佐男神社

すきのおしんじや



祭神は須佐男命です。本殿は、江戸時代前期の建築で、極彩色の装飾は、建立当時の面影を残しており、大変貴重です。昭和47年に市文化財に指定されています。鳥居は、明神鳥居の二つの柱の前後にこれを支える小さな柱（稚児柱）が付けられたもので、両部鳥居とあります。本殿前の神木のクスノキは幹周リ352センチの巨木です。

境内に能阿法師の歌碑があります。

健速神社

たけはやしんじや



祭神は須佐男命ですが、別称は健速須佐男命といます。「川辺郡神社誌」によりますと、かつては東と西に二社の健速神社がありましたが、東西両野間村の合併により、神社も神亀元年（724）年に合併され、現在地に遷されたとあります。社殿は昭和49年に改築されました。なお、境内にクスノキのご神木がありました、平成8年に枯死しました。

関伽井の井戸

あかいのいど



僧行基が掘ったと伝えられる井戸を復元したもので、正覚院南側公園内にあります。疤痕（天然痘）に聞くと言われていました。「関伽」とは梵語で水の意味です。特に仏前に供える水を言い、毘陽寺の付近を「関伽井」と呼んでいたことから、この井戸を「関伽井の井戸」と呼ばれています。

最禪寺

さいぜんじ



勧請開山は盤珪禅師で、創建はその弟子の聖通と言われています。池尻は伊丹市南部の南野の一部と共に伊予大洲藩（加藤氏）の支配地で、当時加藤氏の準菩提寺的存在でした。鬼貫もこの道場の禅により悔悟し、「誠の外に俳諧なし」と主張し、当寺に皈依したとも伝えられています。

御願塚古墳 ごがづかふん



いたみ八景の一つです。市内には「塚」の付く地名が多くありますが、これは、かつては古墳が多くあったことを示しています。地元の人達から「ごがんさん」と呼ばれています。この御願塚古墳は、築造されたのは、5世紀後半と推定される、帆立貝式古墳で、被葬者はこの地方の有力首長だったのでしょう。この古墳周辺にかつて破壊、掛塚、溝塚、温塚という四つの円墳があり、これらを合わせた「五ヶ塚＝ごがづか」が地名の由来と言われています。

樹木 クスノキ、クロガネモチなど

昆陽池公園

こんやうえん

いたみ八景の一つです。奈良時代の名僧、行基（ぎょうき）が天平3年（731年）に築造した農業用のため池を昭和43年に一部公園化し、昭和48年に現在の姿となりました。都市部では珍しい「野鳥のオアシス」として関西屈指の渡り鳥の飛来地です。

秋から冬にかけてはカモなど多くの水鳥が飛来し、可愛らしい姿を見ることができます。

園内にある昆陽池センターには展望室があります。



毘陽寺 こやでら



西国街道と国道171号が交わる地点のすぐ北側に、朱塗りの山門が見えてきます。これが毘陽寺です。天平3（731）年、僧行基が畿内49院の一つとして建立しました。しかし、天正7（1579）年に、織田信長の有岡城攻めの時に、戦火のために全て焼失してしまいました。往時は、四町四面に杜々七堂伽藍を備えた摂津第一の巨刹であったと言われ、現在の山門は第二門だったそうです。広い境内には、本堂（薬師堂）、行基堂（開山堂）観音堂、鐘楼、弁天堂、宝蔵等があります。なお山門、観音堂や広目天像、多聞天像などは県指定の文化財です。また、境内には、四国八十八霊場巡りにちなんだ、八十八体の石仏がおかれています。

樹木 スダジイ、（幹周リ371センチ）、ヒヤリキなど

昆虫館

こんちゅうかん

公園の北東にあり、1年中生きた昆虫と間近にふれあうことができます。チョウ温室では南国の花々が咲き乱れる中を舞う、約14種1000匹のチョウの姿を身近に見ることができます。また、昆虫の世界を10倍に拡大したジオラマや、珍しい世界の昆虫標本、図書コーナーなどもあり、虫や自然環境について楽しく学べます。

観覧時間 9時30分～16時30分 ※ただし、入館受付は16時まで／チョウ温室は10時から
休館日 ①毎週火曜日（火曜が祝日の場合は翌日休）②12月29日～1月1日
※その他、臨時に休館する場合があります。
入館料 大人／400円、中学生／200円、小学生／100円
URL <http://www.itakon.com/>



むぎわら音頭 県指定

南野地区で伝承されている摂州兵庫功徳盆踊りは、広く「むぎわら音頭」として親しまれています。むぎわら音頭は、江戸時代中期に完成されたものですが、その起源は僧行基が猪名野笹原を開発した時、それに従事した労働者を慰安するために、始めたと言われています。音頭の特徴としては、腰を低くし、掌の内側を見せないなど、労働の形が取り入れられ、普通の盆踊りとは異なったものとなっています。昭和52年に県の無形文化財に指定されています。



歌碑一覽

※一部、現代仮名遣いに改めています。

- 1 行基菩薩（毘陽寺境内） 山鳥の ほろほろと 鳴く声きけば 父かとぞ思う 母かとぞ思う
行基菩薩（668～749）天平年間に関陽院を建立し、開拓事業を行う。
- 2 後醍醐天皇（同上） 命あれば 昆陽の軒端の 月も見つ 又いかならん 行末の空
後醍醐天皇（1288～1339）鎌倉倒幕後、元弘の変で隠岐に配流。その途路に。
- 3 飯尾宗祇（毘陽寺山門前） この葉朽ち 水草きよき 川辺かな
飯尾宗祇（1421～1502）室町後期の連歌師。「新撰歌波集」を編集。とちばやし、みつから（はるばやしみつから）
- 4 伴林光平（寺本児童遊園地） 分来てし その世は夢と なりぬるを 何たとらるる 猪名の笹原
伴林光平（1813～1864）幕末の志士、国学者。加納諸平の弟子。
- 5 加納諸平（同上） こをだにと 折とる袖に 且落ちて 露よりもろき 玉椿かな
加納諸平（1806～1857）幕末の国学者。夏目漱石の長男。これ一つだけでもと（椿の花を）折りとると、はかなく花は袖に落ちてしまう。誠に露よりもはかない椿だな。
- 6 大江匡房（西天神社境内） 津の国の 葦の葉しのき 降る雪に 小屋のしのやも うづもれにけり
大江匡房（1041～1111）平安後期の代表的学者。摂津の国の葦の葉に降りかかる雪に、篠で葺いた小屋も埋もれてしまった。
- 7 藤原俊成（奥畑3丁目） 初霜は 降りにつけらしな しがどより 猪名の笹原 色変わるまで
藤原俊成（1114～1204）平安末期、鎌倉初期の代表的歌人、定家の父。初霜が降りたようだな。猪名野の笹原が霜で真っ白に変わるまで。
- 8 能阿法師（須佐男神社境内） 仮枕 猪名野の原に 夢覚めて 傾く月に 鳴る立つ声
能阿法師（1397～1471）室町時代の連歌師。連歌七賢の一人。旅に出て猪名野の原にしばし結んだ飯覆の夢から覚めると、月は山の西に沈みかけようとしており、鶉が飛び立つ声が聞こえてくる。

季節のイベント

赤字がルート付近のイベントです。

春

- 3月 ・伊丹市民オベラ
- 4月 ・桜が見頃（毘陽池公園、瑞ヶ池公園ほか）
・春の宮前まつり（宮ノ前通りほか）
- 5月 ・いたみ緑化フェア（毘陽池公園）
・荒牧バラ公園のバラ見頃（荒牧バラ公園）
- 6月 ・伊丹を歩くワンダーウォーキング

交通

毘陽池公園へは 「阪急伊丹駅」「JR伊丹駅」（各4番のりば）、「JR中山寺駅」から市営バスで「松ヶ丘」バス停下車すぐ（約15分）。

毘陽池公園からのお帰りは（阪急伊丹駅・JR伊丹駅へ） 「松ヶ丘」「玉田団地」「毘陽池公園前」バス停があります。お急ぎの場合は、便数の多い「松ヶ丘」バス停をご利用ください。
※JR中山寺駅へは「松ヶ丘」バス停をご利用ください。

●伊丹市交通局（市営バス）
電 話 ☎ tel.072-781-3751 携帯電話サイト ☎ <http://www.itamcity-bus.jp/> QRコードでのアクセスはこちら

●マップに関する問い合わせは、伊丹市まちなかにぎわい課 TEL.072-784-8068 発行日：平成30年（2018年）3月 発行者：いたみアビールプラン推進協議会・伊丹市